

奈川地区 市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
報告レポート

1 地区テーマ

働き盛り世代が考える「何が奈川の未来を創るのか」

2 ねらい

少子高齢化が著しい奈川地区において、地域が持続可能な地域として存続していくために、地域在住の若者が車座で話し合う中で地域が目指す方向性のヒントを見出す。また、会場となっている「フォーレストフィールド奈川」の活用方法についても意見交換を行い、今年度、持続可能な奈川地区推進協議会で策定する推進計画の参考とする。

3 日時

令和4年10月2日(日) 午前9時から正午まで

4 会場

フォーレストフィールド奈川(屋外開催) ※雨天時は野外ステージで開催

5 参加団体

- (1) 奈川の働き盛り世代(20～40歳代)
- (2) 自治支援交付金交付団体
 - ア 奈川えんがわプロジェクト(信州大学生)
 - イ 花水木(地域の健康福祉増進)
 - ウ まんまる和(地域の子育て世代)

6 オブザーバー

- (1) 持続可能な奈川地区推進協議会長(町会連合会長)
- (2) アルプスリゾート整備本部
- (3) Studio-L

7 ドレスコード

奈川の自然に親しめる行動しやすい服装



市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～ in 奈川地区 次第

1. 開会		9:00
2. 市長あいさつ	臥雲市長	5分
3. 趣旨説明	地域づくりセンター長	10分
4. フリートーク第1部	(1)自治支援交付金交付団体 ア 奈川えんがわプロジェクト イ 花水木 ウ まんまる和	50分
～休憩～		10分
「奈川獅子」(松本市重要無形文化財)上映		10分
5. フリートーク第2部	(2)奈川の働き盛り世代	40分
	(3)その他参加者など	20分
6. 閉会		11:40



◆趣旨説明(高山センター長)

9月1日現在、奈川の人口は602人、299世帯。松本市と合併した平成17年の奈川の人口は、1,026人、350世帯。

ただ、先月8月の人口は3人増えた。そのうち、嬉しいことに赤ちゃんが2人生まれた。でも、減少傾向は変わらない。このままだと10年後、奈川の人口は300人？250人？高齢化率も松本市で断トツ1位の51.7%。

このまま黙って、何もせず、あきらめてしまっても良いのか？しょうがないよ、で良いのか？ある地域の方が、こう言った。「奈川には何もないけれど、何でもある」。

それは、ある意味、本当に素敵なことだけど、ただ、それで地域は存続できるのか。

奈川地区地域づくりセンターでは、地域の皆さんや有識者の先生、松本市の関係課が一緒になって将来の奈川の姿を共有し、どうしたら持続可能な地域となるのか考えていく組織「持続可能な奈川地区推進協議会」を立ち上げた。

あわせて、35地区ある地域づくりセンターの中で、8つの地域づくりセンターが「強化モデル地区」として採択されているが、奈川地区地域づくりセンターが選ばれ、奈川の地域づくりに関わる3つの団体が活動を行っている。

◆奈川えんがわプロジェクト 代表 東太陽さん

信州大学の学生有志による組織。奈川に住んでいる人の暮らしを少しでも楽しく充実したものにするにはどうしたらいいかをテーマに、「今できることはなにか」を地域の人と意見交換をおこないながら、アイデアを提案・企画し、行政と地域住民、そして学生が協力して活動を行っている。

2020年後期の寄付講義で、奈川地区について関わったことから始まった。10人程度で、地域に住む体験をしながら保平かぶの収穫の手伝いやワークショップへの参加、公民館事業で野麦峠を歩いたりして地域住民とかかわりながら活動している。

奈川は非日常を感じることでできる場所として、動画で発信してPRしていきたい。ただ、学生なので4年間しか活動できないので、次にどうつなげていくのかが課題だが、卒業しても細く長くつながっていきたい。



◆臥雲市長

拠点があるということは良いこと。拠点を充実させると参加者も増えていくのでは？

遊び場としての奈川。往来することで QOL(クオリティー オブ ライフ)が高まる。

県外の友人などに横展開して、奈川を広める役割を果たして欲しい。

◆花水木 代表 奥原俊美さん

奈川の福祉にかかわる女性たちで組織。奈川地区の見どころウォーキングマップを作成し、社協や福祉ひろば事業等と連携し、マップを活用して奈川地区をウォーキングすることで健康増進につなげていく取り組み。来年度は、実際にマップを活用したイベントを計画中。

地域の福祉関係者6人で、家に閉じこもりがちな高齢者を元気にしたいという思いで組織を立ち上げた。

地域の見どころをマップにして、それを活用して歩いてもらおうと。御殿桜の場所とか載せて、観光的にも活用してもらえれば。3月下旬には全戸配布したい。

奈川地区は末期癌の状態です、というレポートを書いた。

地域の人たちは奈川のことを考えているが、なかなか実行につながらない。一人暮らしの高齢者、認知症の高齢者の孤立化が進んでいる。

◆臥雲市長

独特の語り口ですね。淡々とした語り口だが鋭い。他の地区も同じような課題を抱えているということだが、600人の人口だから問題を絞り込んでみんなでやっっていこうというコンセンサスを作りやすいし、可能性が大きいのでは？

地域の中で、実行する人、引っ張って行く人がいることが大事。そういう人を増やしていくことを高山センター長にやって欲しい。



◆まんまる和 代表 奥原郁枝さん

奈川地区の働き盛り世代や子育て中の母親が中心の組織。奈川のこどもたちが、地域への愛着を育むことができる場を提供するための活動を実施。現在、奈川保育園は閉園となっており、あわせてコロナ禍により人との交流が希薄になっているため、地域のお母さんたちや子供たちが気軽に集える場づくりに奮闘中。

人口減少、子供やお店も少ない。でも自然豊かで食べ物がおいしい。また、地域の人たちは、子供たちに対して我が子のように接して、大切にしてくれる。大人も子供も輪になって楽しいことができればいい。地元産のそば粉を使ったピザづくりのイベントを開催して、29人が参加してくれた。7月からこのフォーレストフィールド奈川でヨガもやっている。ぜひ臥雲市長にも体験してほしいので、今ここでやりませんか？ヨガマットもあるので。



♠ 臥雲市長

ここは、すごくいい香りのする場所ですね。市内の公園とは違うスピリチュアルな感じ。とても幸せを感じました。

♠ 奥原郁枝さん

奈川の小中学生は全部で19人。保育園児の3人は、稲核にある安曇保育園までタクシーで送迎してもらって通園している状況。奈川で体験できることたくさんある。地域の保育園が閉まっているので、ぜひ再開してほしい。

♠ 臥雲市長

子供の施策は最優先事項。ここにしかない子育て環境、オンリーワンである。もっと大勢の人に交わってもらって、保育園の再開ができればいい。



☕☕ ~休憩~ ☕☕
一日限りの「純喫茶むぎ」が開店
☘☘☘ Coffee break ☘☘☘

青空の下、芝生に座ったり立ち話をしたり、あちこちで談笑の輪が広がっていました。子供たちは、信州大学の学生さんたちと野球や追いかけごっこに興じ、奈川の山々に笑い声が響き渡りました。



◆ 奈川獅子舞保存会 奥原貴さん

～最初に奈川獅子(市重要無形民俗文化財)の映像を上映～

当初は寄合渡という地域の人だけで舞っていたが、人がいなくなって現在は奈川地区全体でやっている。奈川獅子の存在はあまり知られていないので、まずは松本市内に広めていければ。また、イベントにも積極的に参加していきたい。

子供の踊り手も少なくなっている。子供の踊りが大人の踊りにつながっていくので、5年後はどうなってしまうのかとても不安。



◆ 臥雲市長

拝見した第一印象として、旧松本市のお祭りっぽくないテイスト。ストーリー性のある動きの激しいもの。へえーと思った。合併して松本市も大きくなり、自然や文化などが広がって行き面白さにつながっていけば。新たなステージとして、松本城はどうか。多様なものを包含した求心力として、松本城を舞台に色々なものを展開していきたい。ぜひ、松本城で披露してほしい。

また、「青山様」など子供のお祭りをつなげていくこと、今まで縁のなかった南部地域の子供たちも体験できるようなこと、松本市全体で伝統文化の継承を考えていきたい。



◆ 奥原貴さん

奈川獅子だけでなく、浅間温泉火焰太鼓や市内の伝統文化的なものを集めて松本城で出来たらそれぞれの活性化につながっていくと思う。

◆ 臥雲市長

松本ぼんぼんの在り方も見直していく時期かもしれない。大きくなった松本市の象徴として伝統芸能が集まったしつらえ、年月をかけずに実現できれば。

◆ 高山センター長

本年度、文化庁の地域の伝統行事等のための伝承事業に応募したら採択された。コロナ禍で奈川獅子の奉納ができなかったため、奈川文化センター夢の森で地域の人たちに披露するというもの。NHK エンタープライズがネットワークを活用した映像制作と情報発信を行う予定。

(※令和5年3月11日(土)午後1時からの開催が決定しました。この様子はYouTubeやテレビ松本で配信・放映されます)



YouTube 動画配信

◆ 奈川働き盛り世代 小出将司さん(観光施設勤務)

6年前に松本市の梓川に移住し、奈川の観光施設で働いている。奈川は、自然の恵みを生かして、仕事と暮らし、観光や農業などが一緒にできる場所。

◆ 臥雲市長

仕事や生活、遊びを共存して、と潜在的に考えている人が増えている。それをどのように実現に結びつけていくのか？行政としての後押しができるとしたら、より優先度の高い取り組みとは何でしょうか？

◆ 小出さん

奈川の良さを端的に伝えることは難しい。奈川で自然に触れてもただきれいだね、だけで終わってしまう。奈川の魅力は、もっと深いところに入っていないと良さが伝わらない。人材や組織、映像などディープな奈川で観光につなげたい。

◆ 臥雲市長

奈川にしかないオンリーワンを知ってもらおう。可能性は大きい。



◆ 奈川働き盛り世代 井上聡大さん(奈川小中学校勤務)

安曇に住んでいるので、奈川は兄弟みたいに親近感がある。奈川の農産物はめちゃくちゃおいしい。北海道と同じ気候なので、松本の中に北海道があるようなもの。地域の「やりがい」が「なりわい」につながっていけばいい。

◆ 臥雲市長

地産地消の取り組み、給食の在り方については意識してきたが、奈川の野菜の活用はあまり意識してこなかった。井上さんに目を開かせていただいた。奈川での仕事はあまり大きなものでなくとも、いくつかを組み合わせることで住む地域としての選択も出てくる。市全体で考える地産地消の在り方のヒントになる話だ。

◆ 奈川働き盛り世代 勝山崇史さん(松本広域森林組合勤務)

松本市ではゼロカーボンシティを目指す取り組みを進めているが、地域にどのような可能性がでてくるのか。一般の木材利用の普及は進んでいないと感じる。木材利用の推進と合わせ適正な植栽を進めていくことが大切。

奈川では林業振興に取り組んできたおり、インフラ整備もされてきたので供給体制は整っているの、市営住宅など公共施設などへの活用を含め、販路拡大の取り組みをお願いしたい。

今後、カラマツなどの針葉樹を伐採していくが、広葉樹を残し増やすことも大切。

◆ 臥雲市長

多岐にわたる重要な提案と受け止めている。木材の利用推進は優先度が高い施策となる。



◆ 奈川働き盛り世代 関谷野枝さん(東京からの移住者)



子連れで来ることができる環境で、参加しやすいです。現在、(奈川保育園は休園だが)安曇保育園まで送迎をしてもらっていてありがたい。奈川の園児は3人だけなので、少ない環境より安曇の多い環境のほうがいいと感じる。友達との関係性も出来上がっており、送迎をもらえるなら安曇小中学校へ通わせたい。

フォーレストフィールドで子供たちを遊ばせているが、遊具のトゲが刺さるので整備してほしい。今日も遊んでいるけど、多分たくさんトゲが刺さって帰ってくると思う。また、奈川には未就園児を預かってもらえる場所がないので、木祖村の保育園で預かってもらったりしている。週に一回でもよいので、預かってくれる場所があればいい。

東京から移住して6年になるが、自分たちで作り上げて

もっといい場所にしていきたい。

◆ 臥雲市長

奈川の将来と今の生活で直面していることは、必ずしも重ならないが、小中学生の数を増やしていくことと、現状では安曇小中学校への選択があること、選択肢を増やしながらか将来に向けて取り組んでいく。

安曇小中学校は今年度から小規模特認校となり、学区外からの通学が可能となった。小学校までの送迎は補助している。

本市にはファミリー・サポート・センター事業があるが、奈川で同様の仕組みができないか？場所として休園中の保育園の活用もあるのではないか。

遊具についての要望は多くあり、ちょっとした改良で対応できるものもあるため、全市的に直ちにできないか検討していく。

◆ 働き盛り世代 奥原好恵さん(福祉施設勤務)

奈川に生まれ20年離れていたが戻ってきた。子供は、奈川保育園が休園となる最後の園児だった。

先ほどの関谷さんを聞いて、今の保育園児の保護者と私たち小中学校の保護者の考えが違うことが分かった。

ただ、これからずっと奈川に保育園がないということは、移住を考える人にとって大きなネックとなるのでは？

ここを離れた子供たちが大きくなって帰ってくる時に、親御さんたちが「ここに帰ってこい」と言えない現状が何十年も続いている。



子育てを安心してできるということが、地域が存続していける第一だと思うので、「今ここで必要なこと」と「これから先の展望」を別なものとして見ていく必要がある。

◆ 臥雲市長

保育園が休園しているということが、将来展望を描く上での障壁となっている。解消までいかななくても緩和するための手だてをみんなで考えていく。

ある程度の人数がいないと保育士を置けないが、地域の皆さんがサポートする仕組みを作ってもらえるなら、財政支援も考えられる。

人口減少に少しでも歯止めをかけるため、本日の皆さんの話を宿題として受け止め取り組んでいく。

◆ 高山センター長

「何が奈川の未来を創るのか？」が、本日の懇談会のテーマ。

皆さんのお話をお聞きしながら、それはやはり人なんだ、ということが良くわかった。

奈川の暮らしは、松本の市街地に比べて、都会より時間の流れがゆっくりで、人と人との距離が近く温かいコミュニティがある。

コロナ禍において、生き方や働き方を選ぶ時代となってきた。そんな中で、奈川地区にも光回線が整備されることとなり、場所に縛られない働き方として、奈川も選択肢の一つとなっていく。

奈川には、誇ることのできる自然や、人柄や、伝統文化、そして今日お集りの皆さんの活動があるので、これからもっともっと新しいことや広げられることが出てくるものと期待している。

また、皆さんからのご意見は、持続可能な奈川地区推進協議会で策定する推進計画の参考としていきたい。

◆ 臥雲市長

3 時間お付き合いいただき感謝。フォーレストフィールドだからこそできたこと、奈川だからこそ聞くことが出来た話だった。

考えるべきことは何か、とてもクリアーになった。

決して簡単なことではないが、決して希望が見えない課題ではない。

ここに住んでいる方々の志、気持ちがこの状況を良い方向へもっていき最大のものであることを胸に刻み、しっかり取り組んでいきたい。

